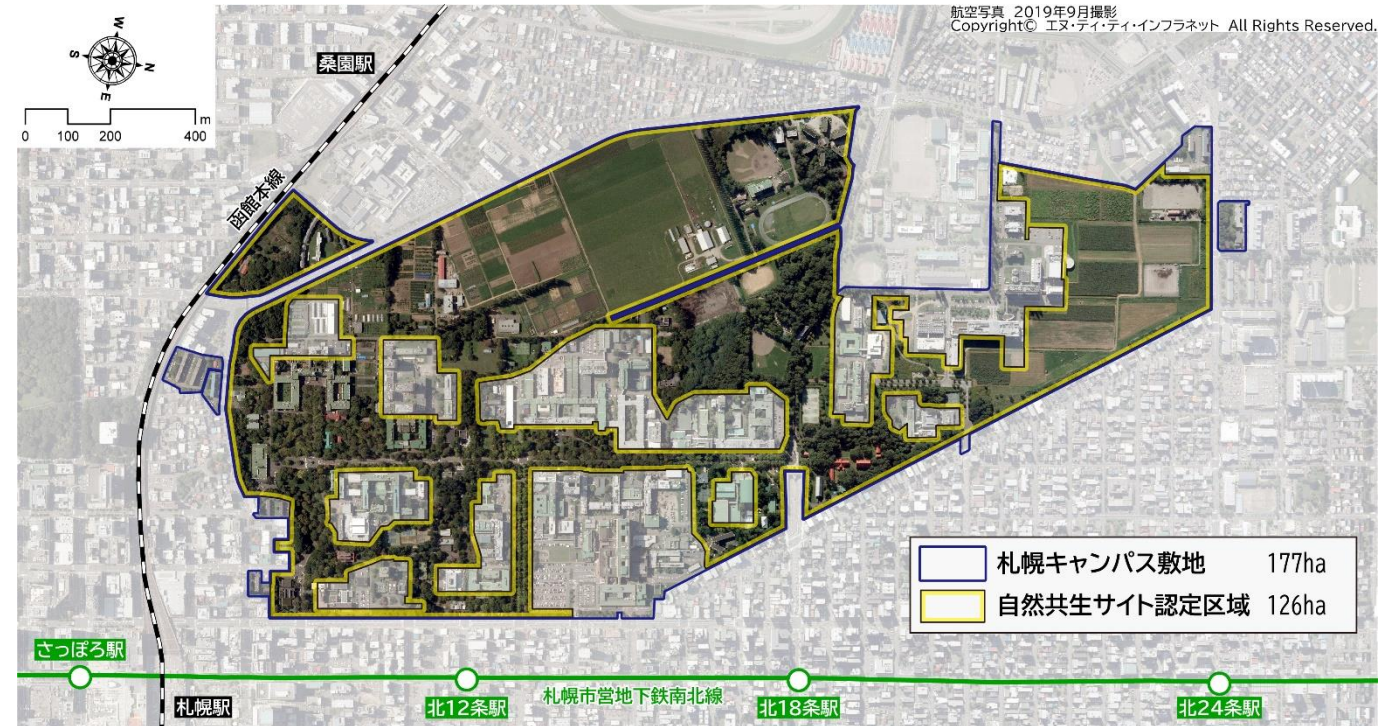


場所 北海道札幌市

面積 126ha

活動目的 北海道の自然と豊かなキャンパス環境に根ざした特徴ある教育研究を推進することを目指しており、札幌キャンパスの豊かな生態系の維持と高度な教育研究活動とが両立する【サステイナブルキャンパス】を創成する。



サイト概要 大都市・札幌の中心部に位置し、広大な生物生産研究農場、研究林（実験苗畑）を有することから、市街地にある大学キャンパスとしては全国屈指の面積を誇る。多くの文教施設が建ち並ぶ一方、札幌の原風景でもある原始の森や豊平川の伏流水の湧き出したメムの跡、希少種を含む多様な動植物相などの生態系が長年にわたり良好に保全されてきた。中央ローンやエルムの森などの緑地、ポプラ並木や銀杏並木などの植栽は、歴史的建造物をはじめとした建築物と一体となって独自性の高いランドスケープを形成し、学生・教職員に留まらず、市民のほか多くの見学者が訪れる憩いの空間となっている。キャンパス全体が学術研究や自然環境教育の場となっている。

土地利用の変遷

1876年の札幌農学校（本学の前身）開校と同時に現在のキャンパス敷地の一部に農鬻園（農場）を設立、1887年に開拓使から札幌育種場の所管換を受け編入し、現キャンパス敷地全域が農場となった。その後現在に至るまで、サイト申請範囲は本学の敷地（大学キャンパス）として管理されている。1903年に現在地へキャンパス移転後、文教施設の拡充整備に伴い農場から施設敷地に土地利用の転換が進み現在に至る。

サイト周辺の環境

札幌キャンパス周辺は市街地・住宅地が広がる。サイト南東側に北海道・札幌の代表駅である札幌駅が位置し、2030年度末に北海道新幹線の開業を控え、高次な都市機能の集積が進むエリアと接している。



アピールポイント

緑地の持続的な管理、保全及び利活用に関する方針・取り組みを定めた『生態環境保全管理方針』を策定、緑地のゾーニングを設定し、緑地内部の保全戦略、開発行為のガイドライン、維持管理の方針、利用のルールを定めている。2009年より生態環境調査（モニタリング）を毎年実施、自然環境の現状把握、調査結果のデータベース化・マップ化と蓄積、データの分析と保全策の検討、データ公開・活用の取り組みを継続。

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

札幌市の中心部にあり、大学施設を取り巻くように自然林、農場、研究林、芝生などの多様な緑地があり、サクシュコトニ川が流れる。歴史的建造物を含む建物と緑地が一体となったキャンパス固有の景観を形成し、学生・教職員に加え、多くの人々が訪れる憩いの空間となっている。キャンパス全体が教員・学生の日常的な調査研究・実習のフィールドであり、農場や研究林からは生産物の供給・販売も行われている。

【主な植生】

特に重要な植生は「恵迪の森」を中心に残る自然林。ハルニレやヤチダモを優占種とする湿性林で、春植物をはじめとする多様な植物からなる林床植生が特徴である。農場(畑・放牧地等)や水辺(水田・水路)は、草地性の開放的環境や湿性環境を好む動植物の生息環境で、多様な昆虫とそれらを捕食する鳥類がみられる。

【確認された主な動植物など】

これまで実施してきた動植物調査（文献調査を含む）により確認された種数等は以下のとおりである。

- ・植物909種（このうち在来種は461種）、144本の巨木（周囲長300cm以上・2015年現在）が生育。早春に咲くオオバナノエンレイソウ、キバナノアマナ、ニリンソウなどの大規模な群生がある。
- ・哺乳類18種（このうち在来種は11種）。エゾリスなどが繁殖している。
- ・鳥類143種。このうち少なくとも9種の繁殖が確認されており、オシドリはキャンパスの象徴的な種である。
- ・両生類4種（このうち在来種は3種）。
- ・魚類6種（すべて在来種）。近年はサクラマスの上流、産卵も確認されている。
- ・昆虫2,156種（このうち在来種は2,139種）。



写真の説明：多くの市民が憩う中央ローン



写真の説明：キャンパス西部に広がる生物生産農場調査研究フィールド、生産の場でもある

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

植物および両生類、昆虫の希少種は、主に自然林である恵迪の森周辺に集中し、重要な環境であることを裏付ける。また、サクシュコトニ川やその周辺の水辺環境にはオシドリやサクラマスが生息する。

【確認された希少種】

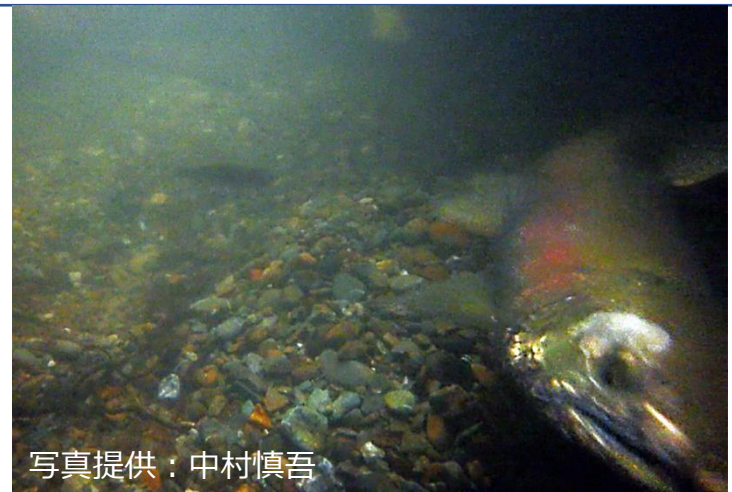
環境省レッドリスト、北海道レッドリスト、札幌市レッドリストに掲載される希少種がサイト申請区域において多数確認されている。

- ・エゾサンザシ(学名：*Crataegus jozana* C.K.Schneid.、環境省レッドリストVU、北海道レッドリストCr、札幌市レッドリストEN)
- ・ヤマコウモリ(学名：*Nyctalus aviator*、環境省レッドリストVU、北海道レッドリストNt)
- ・クロオオアブラコウモリ(学名：*Hypsugo alaschanicus*、環境省レッドリストDD、北海道レッドリストNt)
- ・サクラマス(学名：*Oncorhynchus masou*、北海道レッドリストN)
- ・オシドリ(学名：*Aix galericulata*、環境省レッドリストDD、北海道レッドリストNt)

など



写真の説明：オシドリ



写真提供：中村慎吾

写真の説明：サクラマス

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
<p>・札幌キャンパスの将来像の考え方と実現に向けた手順を総合的・体系的に示す『北海道大学キャンパスマスタープラン2018』の基本目標として「キャンパスの建築、ランドスケープの資産を継承し、最先端の教育・研究活動が持続的に展開できるサステナブルでハイブリッドなキャンパスの創造」を掲げ、農場とポプラ並木や遠方の手稲連山の借景が創り出す独自のランドスケープやサクシュコト二川の水系、原生林、中央ローン・エルムの森・保全緑地等の大規模緑地、歴史的建造物は、大学のみならず地域社会における資産であり、未来に渡り継承していくべきものと位置づけ。</p> <p>・『生態環境保全管理方針』において、札幌キャンパス内の緑地を「生態保全緑地」、「景観維持緑地」、「教育研究利用緑地」に区分（ゾーニング）し、それぞれ緑地内部の保全戦略、開発行為のガイドライン、維持管理の方針、利用のルール等を定め、生態系の持続的な保全・管理を実施。また、キャンパスの景観を代表する樹木、希少性の高い樹木、由緒ある樹木を「保存樹木」に指定。キャンパスにおける注目種としての「希少種リスト(植物版)」(計62種)を作成。『生態環境保全管理方針』は、生態環境調査等による情報の更新、関連計画の変更、生態環境マネジメントWGの検討などにより、ゾーニングを含めて適宜更新。</p> <p>・構内緑地管理業務（4月～11月）にて、日常的な清掃（ゴミ・落葉・枝等の回収）、芝刈り、芝の再生、樹木・生垣剪定等の他、危険枝の目視点検及び剪定を実施。芝刈り作業においては、良好な芝の生育、景観形成などに応じた管理水準（管理高さ、刈草の処置、使用機械）を設定するとともに、希少種を含む在来種の育成や外来種の防除のため、刈り取らないよう留意すべき植物や時期を指定。</p>	<p>【モニタリング対象】 札幌キャンパス内に生息する動植物</p> <p>【モニタリング場所】 札幌キャンパス全域</p> <p>【モニタリング手法】 2009年より開始した生態環境調査（生物相調査）を継続。キャンパスで重要と考えられる動植物（注目種としての「希少種リスト（植物版）」記載種等）の状況を個別に記録、年次報告としてとりまとめ。</p> <p>【モニタリングの実施時期及び頻度】 新たな施設整備が予定されているエリアや未調査エリアを優先しながら、生物相は概ね10年程度のサイクル、注目種は概ね5年程度のサイクルでキャンパス全体を網羅するよう生態環境調査等を実施。</p> <p>【モニタリング実施体制】 サステナブルキャンパスマネジメント本部生態環境マネジメントWGがモニタリングを含む活動全体を企画。生態環境調査を施設部環境配慮促進課及び自然環境の調査・計画を専門とするコンサルタントが実施、必要に応じて学内専門家や学生サークル等の団体と情報共有。</p>